



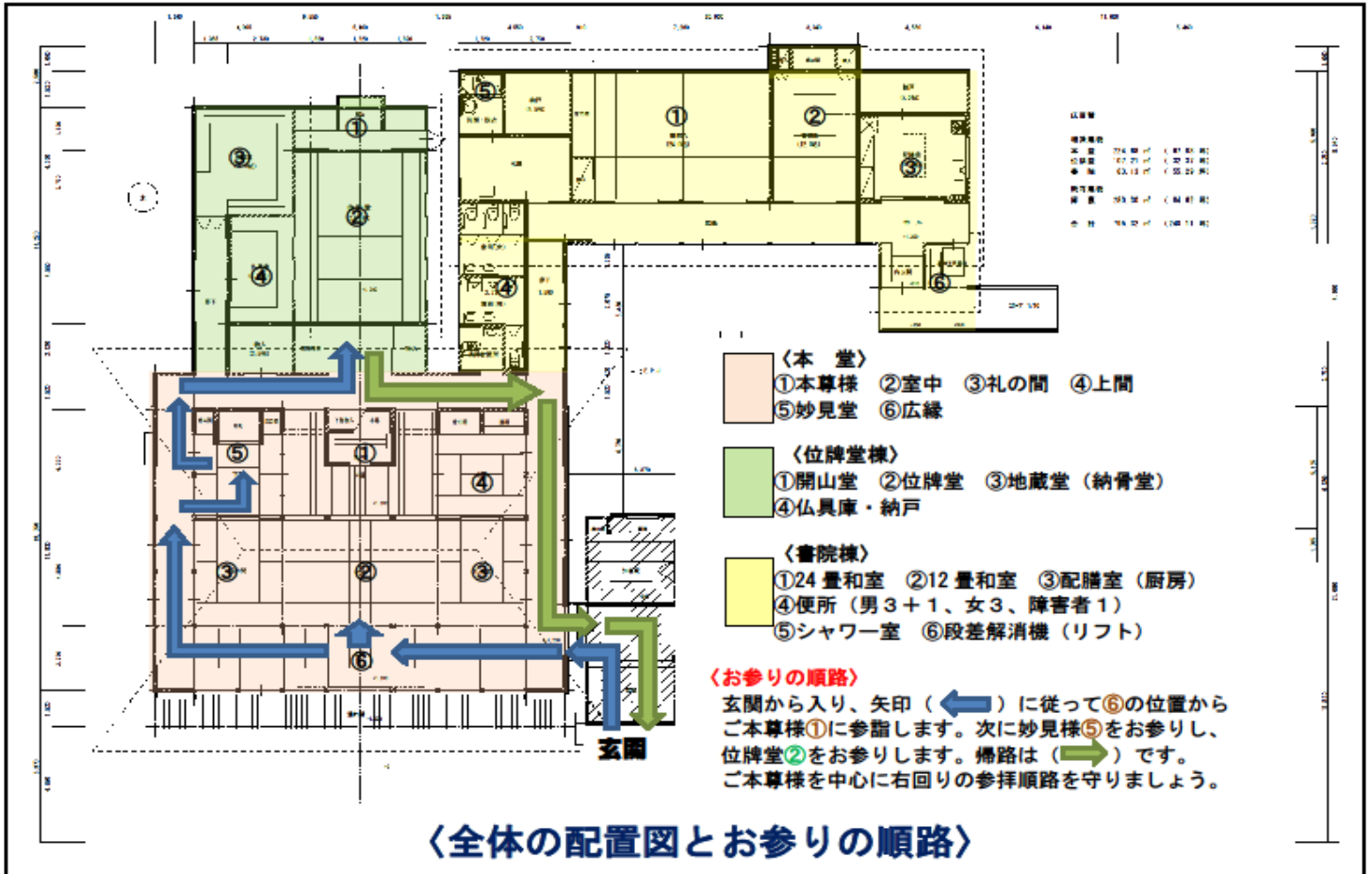
『右ほとけ、左われぞと 合めず^て掌の
中にゆかしき 南無^{なむ}のひと声』

以前、インドやタイを訪問したことがあります。食事をするときには右手をじょうずに使ってカレーでもチキンでも野菜でも素手で食べます。また、トイレに入ればトイレの中に水が汲み溜めてあったりホースが準備されていて紙を使わずに水でお尻を洗うのですが、洗う手は左手を使えと言われたことがありました。右利き左利きを問わず、このように浄・不浄をきちんと使い分けているのです。

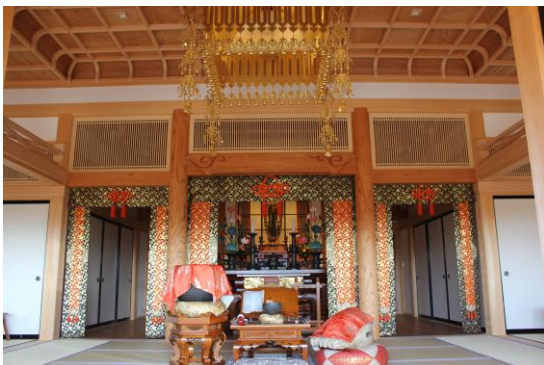
私たちはオギャーと生まれた時には誰もが仏さまのような純粹で無垢な心で生まれて来たはず。ところが“おさな児が 次第しだいに知恵付きて 仏に遠くなるぞ悲しき”とうたわれるように、折角の清らかな心も我欲や我執、はたまた後天的に植えつけられる不自然なルールによってゆがめられることは多くあります。右手が本来の仏さまのような無垢な心を示し、左手は穢れ多き現実の自分を示します。つまり「合掌」とは今の自分を本来の清らかな心に照らし合わせて心を調える意味があるのです。そうすると好きや嫌いが解けてすべての事物をやさしく受け容れることができるし、感謝の心も取り戻せます。「南無」とは「選り好みをせずに、すべてを仏さまにお任せ致します」ということです。恐らく現実には楽しいことと同じくらい苦しいこともある訳ですから、拒絶せずに受け容れて生きられたなら、全部が栄養になってくれることでしょう。「選り食いは致しません、全部頂戴します」と。

新本堂の参詣のしかた

今月のことばの解説にもありますように、右手は清浄な手です。ですからインドや東南アジアでは仏様にお参りする時は、仏様を中心にして右回りが習慣となっています。なぜならば不浄の左手を仏様に向けないためです。正光寺でもこれからは参拝順路を下図の通りご本尊様を中心に右回りでご参詣して頂くように習慣づけることにしました。



- ◇本堂に入るときには合掌をして一礼をしましょう。
- ◇ご本尊様の前（おさい銭箱の前）で、正座をしてお参りをします。
- ◇西側の廊下を通過して妙見様にお参りをします。
- ◇西廊下と北廊下を通過して位牌堂に入り、正面の開山様とご先祖様にお参りします。



最初にご本尊様にお参りします



次に妙見様です



そして開山様とご先祖様にお参りします